

## 琵琶湖水質保全構想について

### 1・現状

琵琶湖総合開発事業も終わり、5年が経過しようとしている。

琵琶湖の水質はどうかといえば、この10年間依然として変わらない。Pについてみると南湖は0.21ppm、北湖は0.009ppmである。

この間、下水道はどんどん実施されているが、この投資額に比例して琵琶湖の水質がよくなったかといえば、下水道だけの投資では水質改善に寄与する効果は限界に近づいていると考えます。工場、事業所排水は上乘せ条例に基づき厳しくしているが、それでも琵琶湖の水質はよくなる。実績で見る限り琵琶湖の水質は、今までのような施策を続ける限り、これ以上よくなるのではないかと思います。

今や琵琶湖の水質保全対策は、面整備の対策と洪水の初期における初期排水対策が琵琶湖の水質保全対策として重要ではないかと考えます。

### 2・改善の方法

対策の最善の方法は、徹底的に汚水を琵琶湖から排除することである。

汚水が琵琶湖に流入すると湖の特性(蓄積し貯留しやがて富栄養化する)を考慮すれば、下水道の建設や工場排水の規制だけでは、2010年まで増え続ける人口、発展する経済を考えると「悪くしないような対策」に終わり「30年代初期の水質に返すこと」は到底達成できないのではないかと考えます。

#### 琵琶湖水質浄化作戦

	下水道
	家庭排水
水質保全	工場、事業所排水
	農業排水
	その他排水
	水質監視体制
	土地利用
湖周辺の保全	河辺、内湖
	河川

#### 調査研究

#### 学習の推進

このうち、下水道の進捗とともに家庭排水および事業所排水は取り込まれておりそれに整備されている。

琵琶湖にとって水質を保全しようとするならば将来的に問題になるのは「蓄積」であり、なかでもPが重要である。農業排水については面的な広がりを持っているため、この処理が

問題となる。

これの抜本的対策として琵琶湖周辺に水質保全水路構想を提案するものであります。

琵琶湖沿岸235kmのうち、汚濁の進んだ南湖周辺にとりあえず計画することにする。法隆寺川、相模川、家棟川を始め汚濁の進んだ都市排水河川、農業排水河川の排水を受ける水質保全水路を建設する。

この建設は、湖の自然環境との調和に配慮しつつ湖岸に沿って建設するもので用地費は0円であり、琵琶湖に堆積するヘドロで覆土することにする。

### 3・琵琶湖～大和川～寝屋川への導水路建設

このように集めた水を大和川へ導水し、大和川の浄化用水として利用し最後は寝屋川へ分水して、寝屋川の浄化用水として利用するのである。

大和川、寝屋川は都市用水として利用されていない河川である。であるならば琵琶湖の下水処理水または農業排水を利用してこれを大和川まで導水して維持用水として利用すればよいと考える。

湖南中部処理場の水質は現況の大和川の水質およそBOD10ppmよりはるかによい水質で0.9ppmであるから何ら危険性はない。

今仮に、湖南中部処理場を対象として考えてみると、H10年でBOD0.9ppm、COD5.4ppm、P0.5ppm、処理水量は789千m<sup>3</sup>/dである。大和川の水質は現状でBOD10ppmである。低水流量6m<sup>3</sup>/sであるから、導水量5m<sup>3</sup>/sとすると $6 \times 86400 \times 10 + 5 \times 86400 \times 0.9 / (6+5) \times 86400 = 5.9$ ppmに改善される。

寝屋川も同様に水質は改善される。